



TITLE:

# ニホンザルリンパ節の組織学的研究( Abstract\_要旨 )

AUTHOR(S):

豊田, 誠

---

CITATION:

豊田, 誠. ニホンザルリンパ節の組織学的研究. 京都大学, 1964, 医学博士

ISSUE DATE:

1964-09-29

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/211334>

RIGHT:

|             |                         |
|-------------|-------------------------|
| 氏 名         | 豊 田 誠<br>とよ だ せい        |
| 学 位 の 種 類   | 医 学 博 士                 |
| 学 位 記 番 号   | 論 医 博 第 144 号           |
| 学位授与の日付     | 昭 和 39 年 9 月 29 日       |
| 学位授与の要件     | 学 位 規 則 第 5 条 第 2 項 該 当 |
| 学 位 論 文 題 目 | ニホン ザル リンパ節の組織学的研究      |

論文調査委員 (主 査) 教 授 堀井五十雄 教 授 西村秀雄 教 授 岡本道雄

### 論 文 内 容 の 要 旨

リンパ節の構造という課題について当教室では、人および各種哺乳動物リンパ節の組織定量的研究を行ない、その系統的観察を試みたが、本研究はその一環をなすものであり、猿のリンパ節を対象とした。

健康なニホンザル (*Macaca fuscata* Yakui) 10例を使用し、各リンパ中心部からそれぞれできるだけ多くのリンパ節を採取し、ホルマリン固定、セロイジン包埋、20 $\mu$  番号付連続切片作製、ヘマトキシリン・エオジン重染色後、投影装置により投影描画し、さらに顕微鏡的観察によって補正を行ない、皮質、二次小節、髄索、リンパ洞等の各部を切り離して秤量しその重量比を求めた。また顕微鏡による一般の形態学的な構造内容をもあわせ観察した。

結果は次のとおりである。

- 1) ニホンザルリンパ節においてはリンパ実質の発達が良好であり、リンパ節全量の70~90%を占める。
- 2) ニホンザルリンパ節においては、一次および二次リンパ節間の組織構造上の相違が明らかで、一次リンパ節はリンパ実質に富みリンパ球生成性リンパ節に属し、二次リンパ節はリンパ洞の発達が良好で、リンパ球抑制調整性リンパ節に属する。ただし腸間膜リンパ節は二次リンパ節に属するがリンパ実質の発達は良好である。
- 3) ニホンザルリンパ節においては、二次小節の発達が良好で、特に末梢および腹部内臓リンパ節群において著しい。腹部内臓リンパ節群では二次小節が髄索内に出現する例が多い。
- 4) ニホンザルリンパ節においては、同一部位の多くのリンパ節は同一構造を呈し、他部位のものとの間に存在するような著しい差異を認めない。
- 5) ニホンザルリンパ節では部位的差異が明らかで、その特異性により次の4群に分かつことができる。

#### (a) 末梢リンパ節群

(b) 腹部内臓リンパ節群

(c) 胸部内臓リンパ節群

(d) 大動脈系リンパ節群

それぞれの特徴を簡単に記すと、末梢リンパ節群は被膜厚く梁材も多い。一次および二次リンパ節間の相違が特に明らかである、二次小節の発達もよい。脂肪浸潤が多い。腹部内臓リンパ節群では被膜薄く、リンパ実質の発達良好、二次小節の発達も良好でしばしば髄索内に出現する。脂肪浸潤はやや少ない。胸部内臓リンパ節群では被膜薄く、リンパ実質の発達良好、二次小節の発達は前2群に比して少ない。髄索内に色素沈着の特に強いものを認めた。大動脈系リンパ節群では髄質の発達が良好で、髄索およびリンパ洞は網目状を呈し複雑に発達していた。

6) ニホンザルリンパ節は、組織学的構造上その分化の程度は、人リンパ節と他の哺乳動物（特に犬、猫または家兎）リンパ節との中間に位置し、むしろ人リンパ節に類似の特徴を呈することが多い。

### 論文審査の結果の要旨

堀井のリンパ節の比較組織学の一環として行なわれた研究であり、健康なニホンザル10例の全身の各リンパ中心部からできるだけ多数のリンパ節を採取し、連続切片標本につき定性的、定量的組織学的検索を行なった結果、ほぼつぎのような結果を得た。

1) ニホンザルリンパ節では同一リンパ中心部のリンパ節はたがいに類似の構造を示し、他リンパ中心部のものと対立的な構造をもつ。その組織学的構成から4リンパ節群にわかつことができる。すなわち、末梢リンパ節群、腹部内臓リンパ節群、胸部内臓リンパ節群、大動脈系リンパ節群である。

2) 一次および二次リンパ節群間の組織構成の差がみられる。すなわち一次リンパ節群はリンパ実質とともに皮質の発達が良好で、二次リンパ節群ではリンパ洞ことに髄洞の発達がいちじるしい。これはことに末梢リンパ節群に著明である。

3) サルリンパ節では一般にリンパ実質および二次小節の発達が良好で、末梢および腹部内臓リンパ節群にことに顕著で、後者では二次小節はしばしば髄索中に出現する。

4) 一般的にみて、ニホンザルリンパ節はヒト・リンパ節にその構造が類似し、組織分化のうえからみても、かなり高度の分化発達をとげていることがわかる。

以上本論文は学問的に有益であって医学博士の学位論文として価値あるものと認める。